

令和7年度 学校評価（総括評価表）

令和7年度 学校評価(総括評価表)

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評価			
◆児童生徒一人一人の個性や能力に応じて自己実現をめざす個別最適で国際性に富んだ教育の推進	【教務課】 〈教務〉 ・学習内容の精選や指導方法の工夫等により、児童生徒の言語力やコミュニケーション力の向上を図る。	① 個別の指導計画における、言語力やコミュニケーション力についての、個々の目標達成の割合が8割以上となる。	① 個別の指導計画における、言語力やコミュニケーション力についての個々の目標達成の割合が8割以上とすることができた。	B	(所見) 様々な場で自分を表現し、コミュニケーション力を高めることに焦点をあて、学部全体で話し合いを持ち、取り組んだ。目標や手立ては児童生徒個々で異なるが、教科・領域において指導内容や方法の工夫ができた。 また、自分の言葉(スイッチ等の手段)で、集会での発表や地域の方とのやりとりができた。	「国語」や「自立活動」で習得した言語力・コミュニケーション力を、他教科や生活場面など、より多様な場面で自発的に活用できるよう、環境設定や情報共有を行い、指導の充実を図っていききたい。  次年度も一人一人の児童生徒の個性や能力、発達段階を踏まえた図書環境を充実させ、児童生徒の興味関心を広げる取組を行っていききたい。  雨天中止時にも地域の方との交流や貢献が継続できるよう代替日の設定やオンラインでの作品紹介などを予め計画に組み込み、児童生徒の意欲を維持する工夫を行っていききたい。	
		活動計画	活動計画の実施状況				
		①-1 教科・領域において、児童生徒の言語力・コミュニケーション力を高めることができる目標を設定し、指導・支援を行う。 ①-2 培った力を般化できるよう、周囲の人と関わる場面を設定する。	①-1 「国語」「自立活動」を中心に目標を設定し、授業展開ができた。また、担任と教科担任の状況共有もできた。 ①-2 お接待、学校祭即売等外部の方とのやりとりの中で、自分の言葉や代替手段を使ってコミュニケーションを図る力をつけることができた。				
	〈図書〉 ・児童生徒の個性や能力、発達段階を踏まえ、一人一人の興味関心に応じた図書環境の充実に向けて取り組む。	① 児童生徒の個性や能力に応じて、興味関心を持ってそうな国際交流につながる図書の配架や企画展等の演出を学期毎に行う。	① 「行ってみたい国」「興味関心のある国」についてのアンケートを全校児童生徒に実施しその結果得られた情報をもとに毎学期配架や演出を行った。	B	(所見) 様々な児童生徒がいる中で、全ての子どもたちにマッチする書籍を準備することは難しいが、移動図書館を活用することで身近にある一冊を手にとることができ、興味関心を持つことができた。新しく赴任されたALTLの先生とも、移動図書館の書籍を通じてコミュニケーションを図り、ふれあうことができた。異文化への扉を開く一助になったと考えられる。		
	活動計画	活動計画の実施状況					
	①-1 児童生徒一人一人の興味関心のある国、学びたい文化等についての情報を収集し、選書を行う。購入できない書籍については、公立図書館の協力貸出を利用して配架する。 ①-2 児童生徒一人一人の興味関心のある国・地域に関しての企画展を開催し、異文化や英語に触れる機会を演出する。	①-1 アンケート結果をもとに学期毎に特集する国を決め、自然や文化・風習、その他地域独特の食べ物等に触れられるように移動図書館を展開した。また、公立図書館の協力貸出を利用して、幅広い分野の書籍を配架することができた。 ①-2 児童生徒だけでなく、教員も授業に取り入れ、活用することができた。					
【特別活動課】 〈特別活動〉 ・地域交流の促進や周囲の人とのつながりを通して、自主的・実践的な態度を育てる。	① 藤井寺や案内所でのお接待活動を年間2回以上行う。 ② 案内所での作品掲示を年間を通して行う。 ③ 1年間の活動での個々の学びを、発表することができる。	① 藤井寺と案内所でのお接待活動を計2回計画したが、雨天のため2回目が中止となり、年間を通して1回の実施となった。 ② 全校生徒で取り組んだ藍染め作品とカレンダーを案内所に掲示した。 ③ 個々が取り組んだ作品制作などについて、全校で発表することができた。	B	(所見) 四国八十八カ所やお遍路さんに関する話を聞いて、今まで取り組んできた活動に対してさらに理解を深め、徳島やその他の地域から来る方々へのお接待の精神を明確に持ち、作品制作やお接待活動を実施することができた。 生徒はそれぞれの得意を生かした作品制作に取り組み、その中で徳島や日本の伝統文化、外国の言語、文化に触れながら、人を思う心を育むことができた。			
活動計画	活動計画の実施状況						
① 県外や外国から来られたお遍さんのことを考えて作品を制作し、お接待活動において配付する。 ② 案内所に児童生徒の美術作品や学校紹介などを掲示する。	① 徳島ならではの藍染めや日本の文化である折り紙、箸袋などの作品を制作し、配付することができた。また、ガイドブックを作成し、案内所に配架した。 ② 全校で取り組んだ藍染め作品や個々の作品、本校のHPのQRコードを掲載した						

		③ お接待活動や案内所の活動を通して興味関心を持ったことについて、個々に応じた学びを展開する	カレンダーを掲示した。 ③ お遍路さんについての講義やお接待活動の実施によって、お接待文化に興味を持ち、それぞれの得意を生かしたり、新たなことに挑戦したりしながら作品制作を行うことで、技能を習得し、徳島やその他の地域から来る方への思いや考えを深めることができた。		
【研究課】 〈人権教育〉 ・人に対する思いやりの心を育てる。	評価指標	① お接待活動時や活動後の感想で、お遍路さんを思う気持ちをことばや態度で表すことができる。	① 児童生徒一人一人がメッセージカードを書き、お遍路さんに言葉や態度で思いやりの気持ちを伝えることができた。	B	(所見) 相手を思いやる心をメッセージカードの形にして、自分の気持ちを表現し、お遍路に喜んでもらった経験は、自己肯定感を高める機会となった。
	活動計画	① お接待について学ぶ講演会を実施し、思いやりの心を育てる学習を展開する。	① お接待について講演会を実施し、学びを深めた。また、思いやりの心を表すことばや振る舞いを学び、実際のお接待の場で実践した。		

【備考：「評価における「評価」の基準」 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった】

徳島県立鴨島支援学校 No2

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評価			
◆地域と連携した安心安全な教育環境の整備と危機管理の実践	【特別活動課】 〈防災〉 ・防災対策に関係する地域住民や近隣病院、施設と連携強化を深める。	① 近隣病院と連携し合同で行う避難訓練の改善点を踏まえて災害時における医療的ケアの計画を見直す。	① 病院と連携して合同で行う避難訓練を通して、災害時における医療的ケアの計画を見直すことができた。	B	(所見) 活動を通して、本校児童生徒への理解を促すことで、災害時のサポートや情報共有を円滑に行えるようになった。また、学校、地域住民、近隣施設が助け合える関係を築くことは、地域の防災力を高めることにも繋がると感じている。	児童生徒の最新の体調やケア内容をまとめた「情報共有シート」等を作成し、災害時に病院と連携できる体制を整える。 また、本校は土砂災害警戒地域に隣接しているため、平時からのソフト面の対策が重要である。そのため、避難体制の強化について、保護者と情報を共有し、取り組んでいきたい。	
		② 学校周辺の立地条件を確認し、地域の自治会の方々や隣接するや施設の関係者の方々に防災に関する質問等を行う事につながりを深める。	② 学校周辺の土砂災害警戒地域を確認したり、地域住民や施設関係者の方々と関わりを深めたりする活動を実施した。				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① 近隣病院と連携し、合同で行う地震避難訓練を年間1回計画し、実施後にアンケートを行う。	① 10月に近隣病院と合同で行う地震避難訓練を実施し、隣接するとくしま医療センター西病院のデイケア棟へ避難した。訓練後にはアンケートを実施し、災害時の計画の改善を行った。				
		② 地域の方々や近隣病院、施設等をチェックポイントとした防災オリエンティングを年間1回以上実施する。	② 学校周辺や自治会長、福祉施設、病院等、地域の方々の協力を得て防災オリエンティングを5月に実施した。				
	〈生徒指導〉 ・価値観を認め合い尊重できる人間関係の構築を	評価指標	評価指標による達成度	評価	(所見) 「協力ジェンガ」はスローガンを設け、一人一人が笑顔で活動に取り組むことができた。友だちを励ましたり応援したりする姿を見ることができ、交友関係をより深めることができた。	今回の活動が児童生徒の笑顔や肯定的な人間関係づくりに繋がったことを踏まえ、次年度は年間を通じた継続的な機会を保障していきたい。	
① レクリエーション活動で、友だちの良いところやすごいところを発見し、伝え合うことができる。		① 活動の中で友だちを励ましたり褒めたりしてするなど良いところ伝え合うことができた。	B				
		活動計画	活動計画の実施状況				
		① いじめ防止委員会が主となって、仲間づくりを目的としたレクリエーション活動を企画し、年間2回行う。	① レクリエーションは「協力ジェンガ」を計画し、12月に実施した。活動後は、友だちの良いところやすごいところを「友情シート」に記入し、児童生徒が共有できるように校内に掲示				

<p>【特別支援教育課】 〈センター的機能〉 ・地域の各学校等に在籍する特別な支援の必要な子どもたちが、在籍校で安心して学ぶことができる体制づくりを支援する。</p> <p>〈進路〉 ・一人一人のニーズに応じた進路指導を推進し、社会参加に必要な知識・技能・態度を育てる。</p>	<p>し周知を図った。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>評価</p> <p>A</p>	<p>(所見)</p> <p>相談後、巡回相談先の学校(園)へアンケートを実施した。「巡回相談は、相談シートに基づいた内容であったか」、「巡回相談員の支援の手立てや合理的配慮に関する助言は適切であったか」、「研修会は、特別支援教育の理解・啓発につながったか」の全ての項目に、「よく当てはまる」「当てはまる」との回答を得た。</p>	<p>巡回相談において、相談シートの項目を精査する等、より具体的な支援の手立てを提示できるよう工夫する。また、地域のニーズに応じた研修支援を継続し、各校(園)の先生方が日々の指導で活用しやすい専門的な助言と情報提供に努める</p> <p>今年度の就業体験や施設見学で得られた知見をもとに、就労アセスメントをさらに充実させ、一人一人の実態に即した支援を行う。また、関係機関との情報共有を継続し、卒業後のスムーズな移行に向けた長期的な視点での進路指導を推進する</p>	
	<p>評価指標</p> <p>① 個々の相談内容を把握するため、巡回相談実施前には、在籍校より対象児の相談シートの提出依頼し、その内容に基づいた相談を実施する。 ② 特別支援教育に関する研修支援を年間5回以上行う。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 実施前に対象児の相談シートを提出してもらい、内容に基づいた巡回相談を行った。 ② 教職員を対象とした特別支援教育に関する研修を、年間で計9回実施した。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>		<p>(所見)</p> <p>一人一人のニーズに応じた事業所リストを作成したり、関係機関と連絡調整して施設見学や就業体験を行ったりした。また、社会参加に必要な進路に関する授業を行う事ができた。高等部保護者へのアンケートでは、「就業体験や施設見学、就業体験発表会などを通して将来の社会参加に向けた支援がおおむね適切に行われている」と全員から回答を得た。</p>
	<p>活動計画</p> <p>① 地域のニーズに応じた相談支援を行い、支援の手立てや合理的配慮の助言を行う。 ② 地域の学校等で校(園)内研修会を実施し、理解啓発に努める。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>① 地域のニーズに応じた相談支援を行い、支援の手立てや合理的配慮に関する助言を行った。 ② 地域の先生方対象に研修を実施し、特別支援教育に関する理解啓発に努めた。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>		<p>(所見)</p> <p>一人一人のニーズに応じた事業所リストを作成したり、関係機関と連絡調整して施設見学や就業体験を行ったりした。また、社会参加に必要な進路に関する授業を行う事ができた。高等部保護者へのアンケートでは、「就業体験や施設見学、就業体験発表会などを通して将来の社会参加に向けた支援がおおむね適切に行われている」と全員から回答を得た。</p>
	<p>評価指標</p> <p>① 高等部の生徒全員に対して、就業体験や施設見学を行う。 ② 3学期に就業体験発表会を実施し、一人一人の学びを発表できるようにする。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 高等部生徒全員に対して、一人2カ所以上の集合体験や施設見学を行った。 ② 就業体験発表会では、自らの体験内容を振り返り、得られた学びや感想を発表できた。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>		<p>(所見)</p> <p>一人一人のニーズに応じた事業所リストを作成したり、関係機関と連絡調整して施設見学や就業体験を行ったりした。また、社会参加に必要な進路に関する授業を行う事ができた。高等部保護者へのアンケートでは、「就業体験や施設見学、就業体験発表会などを通して将来の社会参加に向けた支援がおおむね適切に行われている」と全員から回答を得た。</p>
<p>活動計画</p> <p>①-1 本人への聞き取りや保護者との懇談を通して、一人一人のニーズを把握する。 ①-2 関係機関と連絡調整を行い、施設見学や就業体験ができる環境を整える。 ② 担任と連携しながら、一人一人に応じた進路に関する授業を推進する。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 懇談でニーズを把握し、事業所リストを作成した。 ①-2 事業所、保護者と連絡調整をしたことで、スムーズに見学や体験を実施した。 ② 一人一人に応じて「自己理解」「コミュニケーション」「進路スケジュール」等の授業を行った。</p>	<p>評価</p> <p>A</p>	<p>(所見)</p> <p>一人一人のニーズに応じた事業所リストを作成したり、関係機関と連絡調整して施設見学や就業体験を行ったりした。また、社会参加に必要な進路に関する授業を行う事ができた。高等部保護者へのアンケートでは、「就業体験や施設見学、就業体験発表会などを通して将来の社会参加に向けた支援がおおむね適切に行われている」と全員から回答を得た。</p>		

【備考:「評価における「評価」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった】

徳島県立鴨島支援学校 No3

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	B	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評価			
◆教員の研修の充実と教員の専門性の向上	【研究課】 〈研修〉 ・教員研修の充実を図り、教員の資質や専門性の向上に努める。	<p>評価指標</p> <p>① 自立活動の研修の場を設け、「専門性が向上した」と回答する教員の割合が80%以上となる。</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>① 事後アンケートの結果、全ての教員が、研修を通して専門性が「向上した」「概ね向上した」と回答した。</p>	<p>評価</p> <p>B</p>	<p>(所見)</p> <p>生徒の事例について、外部専門家の知見を取り入れながら、校内での支援方法を具体的に検討することができた。療法士による講演会では、自立活動の指導に必要な基本的な知識に加え、現場ですぐに活用できる事例についても学ぶ事ができ、専門性の向上に役立った。 また、授業記録と動画をデータ共有する仕組みを構築したことで、全教員が必要な時</p>	<p>児童生徒の障がいの状態や支援ニーズは多様化しており、個々の実態に即した指導・支援がめられる。今後は、研修の継続や今まで以上に関係機関と連携し、専門性の向上に努めていく。</p>	
		<p>活動計画</p> <p>①-1 社会人講師(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士)による指導や研修会を年間6回以上実施する。 ①-2 社会人講師授業記録を活用し、専門家の意見を共有する。また引継ぎ資料としての充実を図る。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①-1 今年度は新たに言語聴覚士を講師として招聘し、コミュニケーションや摂食に関する支援について研修することができた。年間8回研修を実施した。 ①-2 自立活動担当者会を行う際、社会人講師授業記録を活用しそれを基に今後の支援について話し合うことができた。全体ケース会を実施することで担</p>	<p>総合評価</p> <p>B</p>			

<p>・病弱・肢体不自由の児童生徒の特性をふまえ、個別最適な授業を展開するための授業力の向上に取り組む。</p>			<p>当事者以外の教員へも共通理解を図ることができた。</p>	<p>にいつでも事例を振り返ることが可能となった。これにより、指導の継続性が確保され、専門性の向上にもつながっている。</p>	<p>次年度は、個々の実態に応じた指導法の研究を深め、保護者と児童生徒の課題や目標を丁寧共有し、指導の工夫を発信していく。</p>
	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>評価</p>	<p>(所見)</p>	
	<p>① 授業検討会後のアンケートにおいて「授業改善に繋がった」と回答する教員の割合が80%以上となる。</p>	<p>① 授業検討会後のアンケートにおいて、100%の教員が「授業改善に繋がった」「概ね繋がった」と回答し、授業力の底上げを実感する結果となった。</p>	<p>B</p>	<p>全教員が病弱・肢体不自由の児童生徒の特性を共有し学習支援を考える機会となった。生徒の主体的な学びや深い学びを保障するための授業改善の重要性を教員それぞれの立場で再確認できた。</p>	
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
<p>〈人権教育〉 ・多様性を尊重できる児童生徒を育てるため、教職員の人権意識の向上をめざす。</p>	<p>①-1 研究授業の授業検討会を全員参加型とし、年間4回以上実施する。 ①-2 授業検討会は、グループによる討議の充実を図り、教員の学びを深める。</p>	<p>①-1 全員参加型の授業検討会を年間5回行うことができた。 ①-2 授業検討会はグループ討議を中心とし教員一人一人が意見を出し合う中で、対象児童生徒の特性を理解し支援方法について教員が学ぶ機会を得ることができた。</p>			<p>教職員の人権意識の向上が児童生徒の指導に繋がっている現状を踏まえ、次年度も継続して研修や資料提供を通じ、人権意識の高揚と更新を図る</p>
	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>評価</p>	<p>(所見)</p>	
	<p>① 研修終了後にアンケートを実施し、「研修は満足であった」、「人権意識が変わった」と回答する教職員の割合が80%以上となる。</p>	<p>① 事後アンケートの結果、全ての教職員が人権意識が「変わった」「概ね変わった」と回答し、目標値を上回った。</p>	<p>A</p>	<p>全教職員を対象とした研修や資料提供を通じ、教職員一人一人の人権意識の向上が図られた。また、保護者アンケートにおいても「児童生徒の思いやりの心や社会性の育ちを認めている」との回答が80%を上回った。 教職員の人権意識の高まりは、多様性を尊重する指導にも反映されていると感じている。</p>	
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
<p>【特別支援教育課】 〈特別支援教育〉 ・教員の特別支援教育に関する知識の向上を図る。</p>	<p>① 全教職員が、人権意識を高めることができるよう、年間5回以上の人権の日の資料提供と掲示をする。また、年3回以上の研修会や参加型研修会を実施する。</p>	<p>① 全教職員の人権意識を高めることができるよう、人権の日の資料提供5回、研修会報告を3回、参加型研修会を2回実施することができた。研修会後には、人権課題について考えることで「人権意識を更新していきたい」「人権意識を高めていきたい」という感想が多く見られた。</p>			<p>研修で得た知識を、実際のケース会議や個別の指導計画の作成に具体的に反映させていく等の取組を行う。</p>
	<p>評価指標</p>	<p>評価指標による達成度</p>	<p>評価</p>	<p>(所見)</p>	
	<p>① 研修会後にアンケートを実施し、「今後の指導に活かすことができる」、「新しい知識を得ることができた」と回答する教員の割合が80%以上となる。</p>	<p>① 研修会後のアンケートにおいて両項目「そう思う」「ややそう思う」と回答した教員の割合が、100%であった。</p>	<p>B</p>	<p>精神疾患を有する生徒への適切な支援方法等、教育的アプローチ、「学校に行きづらい子どもたちへの登校支援」、「思春期における心の病気とその対応」、「気になる子どもの理解と支援」について研修を行い、特別支援教育に関する知識の向上に努めた。</p>	
	<p>活動計画</p>	<p>活動計画の実施状況</p>			
	<p>① 子どもの行動の理解と支援に関する研修会を実施し、教職員の特別支援教育に関する知識の向上を図る。</p>	<p>① 子どもの行動を理解し、適切な支援へと繋げるため研修会を実施し、日々の指導に活かせる知見を共有した。</p>			

【備考：「評価における「評価」の基準」 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった】

重点課題	重点目標	自己評価			総合評価	A	学校関係者評価 今後の改善方策
		評価指標	評価指標による達成度	評価	(所見)		
◆教員の資質向上のためのDXの推進	【情報視聴覚課】 〈情報教育〉 ・児童生徒の障がいによる身体活動の制限や認知の特性、学習環境等に応じてICTを有効に活用し、周囲の人や物とつながり、主体的な学びを創出するための、教員のICT活用能力を高める。	<b>評価指標</b> ① 全教員が、本校における「周囲の人や物とつながり、主体的な学びを創出するためのICT活用」について理解する。 ② 全体研修を1回以上及び長期休業中に希望研修を3回以上実施する。 ③ ホームページで、有効に活用した事例を5本以上発信する。	<b>評価指標による達成度</b> ① とくしま GIGA 推進月間(6月・11月)に合わせ、本校における ICT 活用の理念について周知を図り、全教員の理解を深めることができた。 ② 全体研修1回に加え、夏季休業中に希望研修を3回実施した。 ③ ホームページに ICT の有効活用事例を5本掲載し、積極的に発信を行った。	A	(所見) とくしまGIGA推進月間を通じて、全教員がICT活用の理念を共有できたことは大きな成果である。夏季研修では半数近い教員が参加するなど、活用への意欲の高さが伺えた。一方で、教員全体のICT活用レベルを底上げし、教員間のスキル格差を解消することが今後の課題である。今後は、好事例の共有をさらに活性化させ、組織全体でICTを活用し、主体的・対話的な学びを深められる環境づくりを推進する。	教員間の ICT スキルの差を解消するため、研修や好事例の共有を継続し、全体の底上げを図る。また、得られた技能を日々の授業実践に反映させ、児童生徒の主体的な学びを支える環境づくりを推進する。	
		<b>活動計画</b> ①-1 本校における「周囲の人や物とつながり、主体的な学びを創出するためのICT活用」について課員がまとめた案を全教員に示す。 ①-2 提示後、研修を実施し、全教員で考えをまとめていく。 ② 「周囲の人や物とつながり、主体的な学びを創出する」ためのICT活用能力に関する研修を実施する。 ③ ICTを活用し、周囲の人や物とつながり、主体的な学びを創出する授業実践を推進する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 6月に課員で出した案をまとめ、主体的な学びを創出するためのICT活用とはどのようなものかを示すことができた。 ①-2 全体研修を通じて活用事例の意見交換を行い、具体的な活用イメージを共有した。 ② 夏季休業中にGoogleクラウドやVRゴーグルの研修を実施した。半数近くの教員が参加し、ICT活用の教育利用について理解を深めた。 ③ 理科や自立活動等における実践事例を全体研修で周知するとともに、ホームページへ公開し、教育委活動の可視化を図った。				
	・ICTを有効に活用し、全教職員で情報を共有する。	<b>評価指標</b> ① ICTを活用したことにより、情報共有が「正確で迅速になった」と回答する教員が 80 %以上となる。	<b>評価指標による達成度</b> ① 事後アンケートの結果、「ICT 活用により、情報の共有が正確で迅速になった」と回答した教員が97%以上となった。	A	(所見) TeamsやGoogleチャットの活用は、校内における教職員間のコミュニケーションの迅速化を促し、教職員の事務負担軽減にもつながった。ツール操作に不安を感じる教員への継続的なサポートは必要であるが、情報共有のスピード向上は組織的な対応力の強化につながっている。	ICT ツールの活用を継続し、更なる業務の効率化と情報共有の迅速化を図る。	
	<b>活動計画</b> ①-1 Teams等を活用して情報発信をし、共有を図ったり、意見交換を行ったりする。 ①-2 ICTの良さを活かし、タイムロスが少なく、視覚的でわかりやすい情報を発信する。	<b>活動計画の実施状況</b> ①-1 MicrosoftTeams をクラス・各校務分掌間の日程調整や事務連絡で活用し、情報共有を行う事ができた。 ①-2 Google チャットを導入し、災害時訓練や実際の地震発生時に全教員から速やかに安否確認を行う事ができた。					

【備考:「評価における「評価」の基準】 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった】